



令和3年(2021年)8月15日(日) 毎日新聞「京都 丹波・丹後」面

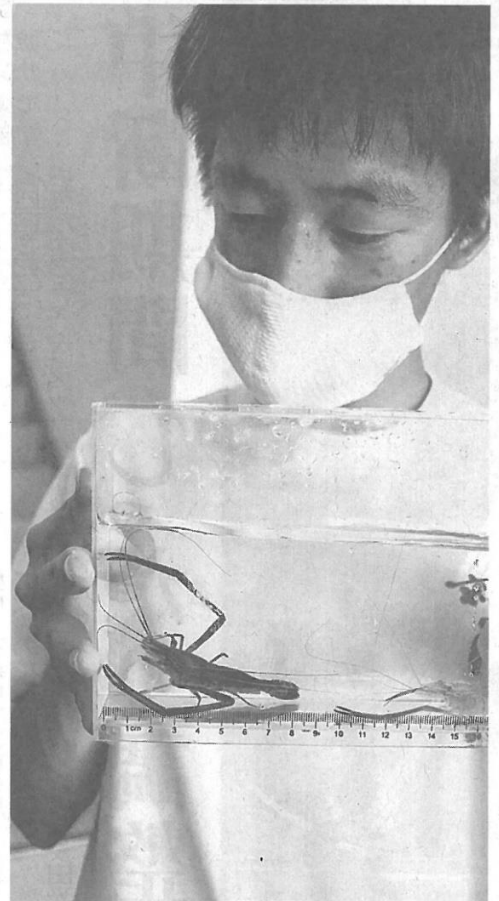
宮津・海洋高

府立海洋高(宮津市)マリンバイオ部が、野菜栽培も手がける建設会社「砂後建設(与謝野町)に生きた魚などを提供し、野菜作りと魚の養殖を合わせた同社の新しい取り組みに協力している。7日には、マリンバイオ部で飼育しているテナガエビのうち約50匹を養殖実験用として提供した。テナガエビは、淡水にすむ大型のエビ。はさみになっっている長い一対の脚が特徴で、唐揚げなど食用として需要が多い。マリンバイ

企業へテナガエビなど提供

オ部は市外の地域づくり団体からの要請もあり、2014年から養殖に取り組み。16年には校内施設での種苗生産に成功し、年ごとに飼育数を増やしてきた。砂後建設は農業分野の事業として、米作のほか、水耕栽培で葉物野菜を生産している。更に、水耕栽培と魚の養殖を組み合わせた「アクアポニックス」と呼ばれる動植物の複合生産システムも導入した。一つの施設で魚を養殖しながら、その排せつ物に含まれた水を水耕栽培の野菜の肥料として利用。水は循環処理し、魚の養殖に使っている。マリンバイオ部からは、これまでホンモロコイの提供も受けている。同社への協力はマリンバイオ部としても、テナガエビの養殖実験の規模を大きくするに必要な飼育施設を確保できるメリットがあるという。同部テナガエビ班のサブリーダーで、3年の今村泉仁さん(18)は「部としてテナガエビの種苗生産に成功しているが、事業化の段階までには至っていない。建設会社に魚を提供することで事業化の成功に結び付き、地域振興に役買つことができればうれしい」と話した。【松野和生

養殖実験に生かして



マリンバイオ部が飼育しているテナガエビ  
—宮津市の府立海洋高で

本校マリンバイオ部が飼育しているテナガエビを養殖実験用として「砂後建設様(与謝野町)」に提供した記事が8月15日(日)発行の毎日新聞「京都 丹波・丹後」面に掲載されました。

今回提供したテナガエビは、アクアポニックスの試験養殖に供されます。

アクアポニックスとは、飼育する水産生物の排泄物や残餌を肥料として水耕栽培の植物を育てるシステムのことです。化学肥料や農薬等を使用しないため環境に優しく、効率よく農作物や魚を生産できる循環型農業として注目されています。